

第2回登別市総合計画第3期基本計画市民検討委員会ぬくもり部会議事録

- ◆ 開催日時 平成26年6月25日(水) 18:30～20:20
- ◆ 開催場所 登別市役所2階 第1委員会室
- ◆ 出席部会員 部会長 雨洗 康江
副部会長 田渕 純勝
部会員 今 順子
鎌田 和子
岩浅 眞純
松本 朋史 (市庁内検討委員会 部会長)
【保健福祉部次長】
吉田富士夫 (市庁内検討委員会 副部会長)
【保健福祉部子育てグループ総括主幹】
- ◆ 欠席部会員 部会員 千葉 円哉
- ◆ 事務局 上野総務部企画調整グループ企画主幹
西川原総務部企画調整グループ主査
- ◆ 議題 「第1章やさしさと共生するまち」に関する考え方について

◎事務局

それでは、第1回のぬくもり部会では、障がい者スポーツの関係と男女共同参画についての話題が中心でしたが、今回も引き続き各部会員の計画への思いを語っていただきたいと思います。会議の進行については、部会長よろしくお願ひします。

◎部会長

皆さんこんばんは。

それでは、会議を始めたいと思いますが、今回もフリートークということにしますので、前回欠席でした部会員からご発言をお願いします。

◎部会員

前回は、欠席して申し訳ございません。私は、これまで造園業を40年以上行っておりますが、14年ほど前に、気持ちと金銭的な余裕ができたことから、以前から考えていた障がい者雇用を始めました。初めは3名の雇用でスタートしましたが、その後、人数が増加するにつれ、採算が合わなくなってきた5年ほど前に、当時の障害者自立支援法の事業所指定を受けることができました。

これにより、国と北海道、登別市からの給付金が入ることになり、今年3月

の決算では、給付金により収支がちょうど均衡が図れる程度となっております。

現在は、私の事業所から、一般就労に移行していく方も徐々に出てきております。

私の事業所では、「最低賃金の減額の特例許可制度」により、障がいの程度に合わせた賃金を設定しています。この制度は、現在、北海道の最低賃金は734円ですが、就労能力によって、労働基準監督署の審査を受け、最低賃金を下回る賃金で雇用する制度です。一見、低賃金で雇用するように思われますが、「最低賃金を一律に適用するとかえって雇用機会を狭めるおそれなどがあるため、特定の労働者については、使用者が都道府県労働局長の許可を受けることを条件」として個別に最低賃金の減額の特例を厚生労働省で認めているものです。

一方で、最低賃金は保障するものの、1日2時間程度の雇用で、利用者数を増やしている事業者もあり、社会問題になっている場合もあると聞いております。

とにかく、今は頑張って障がい者の就労事業所をやっているというのが現状です。

◎副部長

部会員は、障がい者雇用について、これまでの経験をお話ししていただきましたが、それ以外に、数年前に国の補助を活用し、共生サロンというものも始めています。この補助は、建築費の補助であり、その運営や維持費については、事業者が独自に行うこととなっています。

私は、この施設の運営委員として関わっていますが、夏季と冬季のイベントはあるものの、なかなか収益を得る状況までは至っていないと推察しています。

せっかく、福祉施策として良い施設があるのだから、このような施設の支援などについての議論もこの部会のテーマになると思っています。

この点についても、部会員から直接、お話しを聞かせていただきたいと思っております。

◎部会員

ところで、共生サロンとは何ですか。

◎部会員

そこも含めて説明します。共生サロンというのは、地域の高齢者、障がい者、子どもたちが一緒に交流できる拠点となるものを目指しています。

道内には、様々な共生型施設がありますが、私のところは、立地場所にいろいろな規制があり、なかなか他の地域の施設のように収益を上げることができません。数年後には、建物の補修等についても経費が発生します。この経費の

捻出に頭を悩ませています。

◎副部長

皆さんは、このような施設があることをご存知でしたか？

(ほとんどの部会員が知らないと回答)

ここがまず1つのネックですよね。先ほども話した通り、私を含めると10名程度の運営委員により、いろいろな意見を出し合っていますが、現実には事業を進めていくのは事業者です。今のままでは、どんどん右肩下がりで事業を運営していくことになるので、ここは福祉施策として何とか支援できないか考えています。あの施設は、見晴らしも良く、いろいろなものに活用できると思います。

◎部会員

せっかくある施設なので、ここにいる部会員のみなさんにも利用してもらおうということも一つの方法です。

◎副部長

ただ貸すのではなく、維持費程度の負担をお願いしたり、行事でも最低限赤字の出ない位の参加料を取ることも大事なことだという話もあります。

現在は、地域の中学生や、高齢者がボランティア活動で、畑作業などのお手伝いなどの活動の場にもなっています。

◎部会員

それでは、これまではほとんど無料で使わせていたのですか。

◎副部長

大体そのような感じです。

◎部会員

会合をするのであれば、他の施設でも無料で利用できる場所もあるのでどうなのでしょう。

◎副部長

たとえば、軽食や喫茶程度でもできれば良いのかとも思いますが、いかにせん市民にあまり知られていないことがネックにあります。

◎部会員

施設のバリアフリーはどうなっていますか。

◎副部長

施設までは車で来る必要がありますが、施設とその周辺はバリアフリーになっています。

いずれにしましても、まだ知られていないということが大きいですね。ほかの施設でもいろいろな苦労があると思います。いずれにしても、このぬくもり部会で障がい者就労の関係もあります、いろいろとマッチングさせていけると良いと思います。

◎部会員

良い施設があることは承知しましたが、そこから最低限施設を維持できるだけの利益を生み出すということが難しいですね。

◎部長

申し訳ありませんが、知らないことばかりでした。

◎事務局

話が計画からそれてきているようですので少し軌道修正したいと思います。

まず、個別の民間施設の運営支援などは、市の総合的な計画なので、この部会で議論して、計画に登載するということではできません。なお、基本計画とは別にサロンで行う行事等の広報周知などの側面的支援は可能だと思います。

◎副部長

私は、先ほど言ったように運営委員会のメンバーですが、国の助成金を活用して建てた施設なので、市も「あとは知りません」ではなく、何らかの包含した施策があっても良いと思う。それが「ぬくもり」だと思います。

別に金銭的支援が必要だということではない。何か言葉で最低限表せることがないかということです。

◎部会員

子どもや高齢者や障がいのある方などに、サロンに来ていただき、何かエネルギーを持ち帰っていただければ最高だと思っています。例えばただ食事をして帰ってもらうのではなく、何かもう一つやることがあれば良いと思っています。それには、今の施設の周辺の環境を上手に活用できればと思います。

◎事務局

国の助成金の申請の際には、元気高齢者に来ていただき、下校児童と一緒に交流するような計画も入っていたと記憶しています。

◎市庁内部会部会長

この助成金は、国の高齢者対策の助成金です。当然、高齢者や障がい者、子どもと一緒に交流はあってしかるべきものです。

今のお話を聴いていますと、施設のランニングコストや維持管理費のお話もあり、事務局が想定する議論と少しずれてきているように感じます。

◎副部会長

そういうつもりではありません。ただ、サロンの実態について、皆さんがよくわからないと思うので、こういう事例もあるという意味で話題にしました。別に財政的支援をして欲しいということではありません。考え方は、行政側とずれているつもりはありません。

◎市庁内部会部会長

このぬくもり部会で議論する、子育てや障がい、高齢者などの分野については、それぞれ担当する主幹を中心に、必要な事業を進めるとともに、その事業を包含できるような計画づくりに努めたいと思います。

◎副部会長

それはそれで結構だと思います。最終的には体系図の「主要な施策」までが大事だと思います。その下の「主要な施策の考え方」は、記載だけでなく、この記述にはどういった意味が込められているか等を、直接言葉で話すことも必要だと思います。その役割は、私たちにもあると考えています。

◎市庁内部会部会長

そうですね。皆さんの想いを受け止め、なんとか、その思いを言葉として反映できれば良いと思います。

ところで、部会員さんが実施している就労継続支援A型は、この近辺ではどの位ありますか。

◎部会員

市内には1か所で市外にもそんなに多くありません。一口にA型と言っても色々な形態があります。私はたまたま自分も足に障がいがあったので、この事業を始めるきっかけとなりました。

◎事務局

それでは、時間もかなり経過しましたので、障がい者雇用やサロンの話はこの辺で一度終わらせていただきます。

今回は、障がい者スポーツと男女共同参画の話がありましたので、あとは子育てと高齢者の話題があまり出てきていないと思いますので、何かありますか。

◎部会長

最近のニュースなどで児童虐待が報道されていますが、登別市ではどのような状況ですか。

◎市庁内部会部会長

子ども虐待相談室を設置し、2名の専属を配置しています。

◎部副会長

相談は大きいものから小さいものまでいろいろとあると思いますが、今の社会は、近所づきあいなども希薄になっており、そのような窓口を設置することは、この問題の突破口になっているのだと思う。何か相談できる窓口があることはとても大事だと思う。

◎部会員

今の親は、子どもにここまで叱ったらやりすぎという加減を知らない人が多いと思います。

◎部会員

子どもだって一つの人権です。子どもに権利があることを理解すれば、親は子供を大事にするはずですが、そういう教育が日本はあまりされていません。私はいろいろな社会問題があると思いますが、そこが欠落していると思っています。

◎部会長

私は、平成8年の総合計画にも携わらせていただきました。それから20年くらい経過していますが、なかなか社会は変わらないのかなという印象を持っています。

◎部会員

最近の都議会でも女性蔑視の発言がありました。その程度の意識です。

◎部会長

それほど社会の意識が低いんだと思います。急に方向転換をすると船が沈むのと同じで、ゆっくり旋回しないとなかなか意識は変わらないのかなと思っています。

◎部会員

今の日本は「平和ボケ」していると思いませんか。いろいろな意味で世界中から日本はどうなっていくのかと注目されていると思います。

◎部会員

一人ひとりがきちんと判断できる人を作っていけないといけないと思います。

◎部会員

これからの若年者は、大変な時代を生きていくことになると思う。就労などの問題もそうだが、将来的には食糧の確保なども問題になってくると思う。

◎部会員

今の子供たちは横並びで、何か違うことをするといじめられてしまうなど、変な社会現象がうまれています。

◎部会長

私たちが小さいころは、悪いことをすると親の目が届かなくても、近所の人々が叱ってくれていましたが、今は見て見ぬふりということが多いと思います。

悪いことをする子どももそうですが、それを叱らない今の大人も悪いと思います。

◎部会員

町内会などでは何か今の話のようなことについて、取組はあるのでしょうか。

◎副部会長

入り込めないところもあります。個人的には個人情報法律が拡大解釈されている部分もあり、民生委員などもなかなか地域の状況をつかめないような状態になっているのかなと感じています。やはり、普段からの近所付き合いなどが重要になっていますが、なかなか難しいです。

◎部会員

ただ、今の子供の話をすると、先日室蘭市でつまづいたときに、近くにいた高校生の男子5人くらいが、助けてくれて、「気を付けてください」と見送ってくれたことがありました。今どきの高校生にしては、珍しいなと温かく感じました。

◎部会員

困っている人が困っていると手を上げないことも多いと思います。

◎副部長

今のようにいろいろと話してみると、簡単に議論できますが、これを計画の言葉にしていくという作業は大変な作業になります。今配布されている第3期基本計画の体系図もプロの行政職員が作成しているので、問題ない内容になっていると思いますが、そこに血や肉をつけていくために市民検討委員会をやっていると思うので、同じ文言でもその意味合いが違うので、やはり議論が必要だと思います。

◎部長

ありがとうございました。

◎事務局

そろそろ予定の時間も近づいてきましたので、次回の日程を調整して終わりたいと思いますが、いかがでしょうか。

フリートークも2回実施しましたが、次回からは実際の体系図を使用して議論したいと思います。

次回の部会では、第3期基本計画体系図（案）と見直し調書、第2期基本計画の冊子の3種類については、忘れずにお持ち願います。

◎部長

それでは、皆さんの予定を勘案し7月14日（月）か16日（水）の18時30分から市役所で開催したいと思います。通知は事務局より後日通知します。

以上で会議を終了します。ありがとうございました。